

編集後記

宮地技報第7号が発刊の運びとなりました。

今号では、埼玉大学田島二郎教授から「適材適所」のタイトルで巻頭言をいただきました。安芸の宮島・厳島神社に現存する3つの木橋の紹介に始まる橋梁の優美な歴史と、近代橋梁が鋼とコンクリートとの採用によって始まり、両者を適切に組合せる複合化によりジャンルを拓げつつあることが述べられています。先生の御経験を随所に引用された具体的な記述は、今後の方向性に対する示唆を与えてくれるものと、大変有難く、厚く御礼を申し上げます。

中東では、イラクのクウェート侵略に起因する湾岸戦争が勃発し、米国を中心とする多国籍軍によるイラクへの空爆が連日行われています。そのテレビ映像の中に、バクダッド市内の橋が落とされ、人々が小船で往来しているものがありました。橋の建設に係わる1人として、むなしい思いをするとともに、1日も早い平和の回復を祈念してやみません。

市民生活に欠かせない公共構造物である橋梁の建設に携わっているとの自負を持ち、技術の研鑽に励んでまいります。今後とも御支援御指導の程よろしく申し上げます。

技報編集委員会

委員	長	小池修二			
副委員	長	小川英信	三木茂喜		
委員		青木清	伊木達治	太田武美	
		小出勝雄	菅井衛	滝戸勝一	
		中島善郎	能登宥愿	原昭恵	
		宮崎好永	宮坂睦夫*	太田貞次*	

*印 事務局兼務

宮地技報 第7号

発行日 平成3年2月25日

発行所 株式会社宮地鐵工所

〒103 東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号

(日本橋SKビル) TEL 03 (3639) 2111(代)

印刷所 三好印刷株式会社